News letter

2026年10月
Vol. 2

一般社団法人 日本作業療法士協会
地域社会振興部 地域事業支援課 地域包括ケア推進班主催

2026年度 第2回地域事業支援会議

群馬県士会版

2026年10月3日、4日に日本作業療法士協会「第2回 地域事業支援会議」を開催し、各都道府県士会の選任者および聴講者等あわせて 150名を超える皆さまにご参加いただきました。本会議では、5歳児健診・学校領域への参画推進、協会認知症対策班から軽度認知症・MCIの地域生活支援などについて、具体的取組や情報共有、地域でのOTニーズについてアイデア交換を行う貴重な機会となりました。

5歳児健診・学校領域でのOT参画に向けた仕組みづくりの紹介 （地域社会振興部からの報告）

今年度の重点事業として、5歳児健診や学校領域における作業療法士（OT）の参画を推進するための仕組みづくりが紹介されました。今年度のモデル事業として大阪府士会・奈良県士会が進めている「研修事業」と「派遣事業」の紹介がありました。大規模士会と小規模士会をモデルとし、士会間連携体制の構築が進められています。

各事業のトピックス

短期集中型サービス 事例募集について

『短期集中予防サービス実践事例集Vol.2』の作成に向け全国から8つのカテゴリー（日常生活動作、家事、趣味、移動、就労、社会資源、口腔栄養）事例を募集中！

応募はこちら



ニュースレター活用のお願い

地域事業支援会議では、会議後に「ニュースレター」を配信しています。しかし、理事会や士会員への情報発信が進んでいませんでした。是非、ご活用をお願いいたします。

認知症 MCIへの地域支援

地域で暮らす、軽度認知症・MCIの方々への地域生活支援の取組が紹介されました。本人の「やりたい・継続したい」を思いを支援し、社会参加につながる活動や施策に反映した報告がされました。

士会マネジメント事業

3年をかけ作成してきた『士会マネジメントQ&A』が完成しました。更に、全体の内容を要約した「要約版から地域支援事業に参画する上で必要なQ＆Aが一目で解ります！

要約版はこちら



グループワークでは 「ブロック機能を発展させるアイデア」、「士会マネジメントQ＆Aの活用」、「認知症施策とOT」、「行政にOTの役割をどう伝えるか」など様々なテーマで熱く意見交換を行いました。

ブロック間での連携・協力体制や実際に地域支援事業に参画するノウハウの活用、地域でOTニーズをどのように生み出すのか？ さまざまな参加者から有益なアイデアが出されました。

グループワークで挙がった具体的な意見として・・・

行政に作業療法士の役割を伝えるには、まず担当者が困っていることを知り、支援前後の生活の変化を具体的な事例で示すことが大切／認知症の方の「役に立ちたい」「買い物を続けたい」という思いを、見守り活動や買い物支援などにつなげるため、地域の団体や企業との協力が必要／地域活動を単発で終わらせないために、行政担当者が異動しても連携を続けられる仕組みや、新たに参加する会員を支える体制づくりが課題 など

編集後記

今回の会議では、5歳児健診や学校での支援、認知症の方の社会参加など、幅広い世代の暮らしを支える実践が紹介されました。共通していたのは、本人の思いを出発点に、活動の方法や環境を工夫し、地域の人と協力することです。日々の臨床で培った生活を見る視点を地域でも生かせるよう、会員の皆さまと実践や情報を共有していきたいと思います。 群馬県士会 担当：高坂